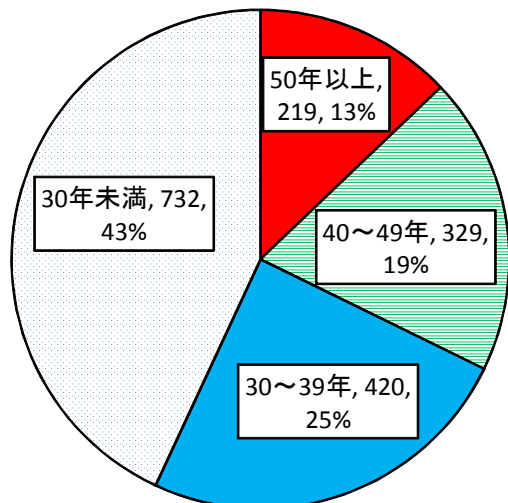


れ、過去の実績では50年でほぼ半数の橋が架け替えられているといえます。橋の寿命には維持管理のあり方が非常に大きく影響し、その良し悪しで、いわゆる物理的な寿命は2倍にも3倍にも伸ばすことができるといえます（「橋があぶないー迫り来る大修繕時代ー」依田照彦・高木千太郎共著、株式会社ぎょうせい）。

昨年、中央高速道路で起きた笹子トンネルの天井板落下事故は記憶に新しいところですが、いま全国各地で、道路や橋、トンネルなどインフラの老朽化が問題となっています。一方で、これらインフラの維持管理を担う行政の財政は厳しい状態です。横浜市でも例外ではありません。

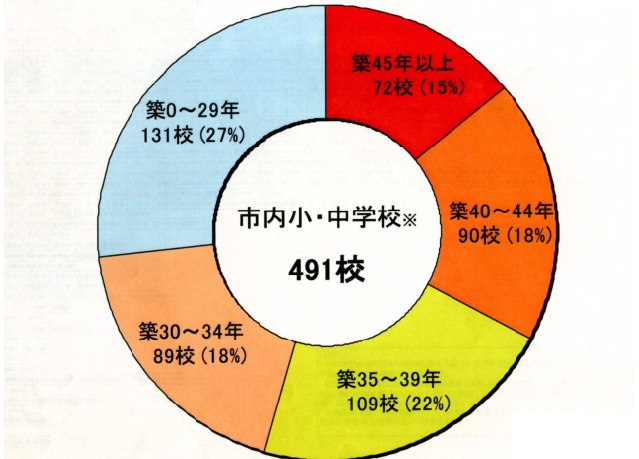
橋に関して技術的には素人の私たちが短時間で見た3つの橋だけでも、見た目でも補修が必要だとわかるほどです。橋や道路、トンネルなどが突然崩壊した場合、通行車両や歩行者は危機を避けようがありません。安心安全に通行するためには、管理者である市のきちんとした維持管理が不可欠です。定期的に、橋梁の点検を専門家によって行うこと、補修を早々に行うことなど、維持管理費用を惜しむことなく適切に使うことが求められています。

図1 横浜市の橋梁の築年数



(2012年度末現在、横浜市道路局提供資料より作成)

図2 小・中学校施設の主要な校舎の経過年数



(2011年度4月1日現在、横浜市教育委員会提出資料)

### (3) 校舎の老朽化

横浜市の小・中学校施設の主要な校舎の3分の1は築40年以上たっています(図2)。今回調査した中村小学校は、日常的に学校職員でできる範囲での補修が行われている様子で、職員のみなさんのご苦労がうかがわれました。

学校は、子どもたちが日中の大半を過ごす場所です。子どもたちが安心して学び、遊ぶためには、学校校舎は安全でなければなりません。また、学校校舎の多くは災害時の避難所にもなっており、避難所が壊れてしまっは話になりません。

学校校舎の維持管理、建て替えも含めた保全計画を早急にたて、優先的に取り組んでいく必要があります。

私たち日本共産党横浜市議団は、高速環状道路建設や国際コンテナ戦略港湾整備、横浜駅周辺大改造計画などの国が推進をはかる大型開発事業に予算を重点的に配分する“選択と集中”を改め、防災、医療充実、子育て支援、まちづくりなど市民の安全・安心にこそ“選択と集中”するべきだと主張しています。橋や道路などのインフラ、学校校舎の日常的定期的な点検・調査および維持管理・保全計画の実施が急務です。

今回の調査でわかった実態を、議会で取り上げ、“選択と集中”の転換を実現するために全力をあげます。

発行 2013年4月 **日本共産党横浜市議団**  
日本共産党横浜市議団 横浜市中区港町1-1市役所内  
TEL 045-671-3032 FAX 045-641-7100